


課題名	原子力産業への社会的規制とリスク・ガバナンスに関する研究			
参画機関	学校法人早稲田大学、国立大学法人東京工業大学			
事業規模	期間	平成24～26年度	総額	40百万円
<p><b>【研究代表者】</b></p> <p>松岡 俊二 早稲田大学教授 (大学院アジア太平洋研究科)</p>				
				
<p><b>【研究概要】</b></p> <p>本研究「原子力産業への社会的規制とリスク・ガバナンスに関する研究」は、社会・人文科学と工学との学際的共同研究により、また欧米の事例などとの国際比較研究により、原子力発電に対する社会的規制が有効に機能するための社会的条件を明確にすることを目的とした。</p> <p>この研究目的を達成するため、本研究は以下の4つのサブテーマを設けて研究を遂行した（括弧内は研究担当機関）。</p> <p>(1) 規制機関の独立性と規制実施能力の関係分析（早稲田大学、パリ政治学院）  (2) 電力・エネルギー技術・政策と電力産業の研究（早稲田大学）  (3) 電源（原発）立地と地域社会の関係分析（早稲田大学）  (4) 原子力発電リスクの社会的規範とガバナンス研究（東京工業大学）</p> <p>本研究は、これら4つのサブテーマについて、社会科学（政治学、経済学）、人文科学（人類学）および工学（原子力工学、エネルギー工学）から学際的にアプローチし、国際共同研究の成果として、日本の今後の原子力発電所や原子力産業に対する有効な社会的規制のあり方を明らかにした。</p> <p>具体的には、福島原発事故を契機として制度改革が行われた日本の原子力安全規制について、2012年9月に発足した原子力規制委員会（NRA）に対する評価研究を行った。原子力規制委員会を独立性基準から分析した結果、政治的独立性は合格、行政的独立性はほぼ合格であるが懸念材料があり、人事的独立性は不合格と評価した。次に、原子力規制委員会を透明性基準で評価すると、「①意思決定過程の情報開示」、「②国会への報告義務」、「③推進組織、事業者、政治家などとの交渉記録の作成と公開」、「④委員の国会同意人事」という4項目の全てで基準を満たしており、合格と評価した。社会的信頼回復という点では、いまだ問題が多く、特に規制委員会のリスク・コミュニケーション能力の向上は今後の大きな課題である。このように、本研究は社会的信頼回復やリスク・コミュニケーションといった点では課題が残るものの、独立性・透明性といった基準では、原子力規制委員会の2年半の活動は、概ね高く評価できることを明らかにした。</p> <p>しかし、規制委員会の所掌を超えたオフサイト対策については、今後のさらなる改革が必要だと評価した。特に原子力防災計画については、誰が、どのような基準で避難計画の有効性や実効性を評価し、計画が適切であると認めるのかといった点での課題が大</p>				

きい。この点では、アメリカの FEMA による地方政府の緊急時計画の審査・承認といった制度は、今後の日本の参考となる。

また、原発立地周辺の地域社会におけるリスク・コミュニケーションやリスク・ガバナンスのあり方も今後の大きな課題であり、地域社会との双方向コミュニケーションを図る制度的な好例としてフランスの地域情報委員会 (CLI: Commission Locale d'Information) があり、日本もこうした制度設置の検討をすべきである。



図1 フランス国内における地域情報委員会 (CLI)

(出所) ANCCLI のウェブサイトの資料を引用した上で、筆者修正。

### 【その後の取り組み】

研究グループは、現在、科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究「原子力災害被災地におけるコミュニティ・レジリエンスの創造」(研究代表者・早稲田大学教授・松岡俊二、2015年度～2017年度) および科学研究費補助金・基盤研究 (B) 「高レベル放射性廃棄物 (HLW) 処理・処分施設の社会的受容性に関する研究」(研究代表者・早稲田大学教授・松岡俊二、2016年度～2018年度) により、「フクシマの教訓」を踏まえた福島復興および原子力政策のあり方について共同研究を継続中である。

代表的な 特許、論文 受賞など	1. 書籍 鎌田薫 (監修) (2015) 『震災後に考える：東日本大震災と向きあう 92 の分析と提言』 早稲田大学出版部 Amako, S., S. Matsuoka, and K. Horiuchi eds. (2013), <i>Regional Integration in East Asia: Theoretical and Historical Perspective</i> , United Nations University Press. 松岡俊二・いわきおてんと SUN 企業組合 (編) (2013), 『フクシマから日本の未来を創る：復興のための新しい発想』 早稲田大学出版部 松岡俊二・師岡慎一・黒川哲志 (2013), 『原子力規制委員会の社会的評価：3つの基準と3つの要件』 早稲田大学出版部 松岡俊二 (編) (2013), 『アジアの環境ガバナンス』 勁草出版 松岡俊二 (2012), 『フクシマ原発の失敗—事故対応過程の検証とこれから—』 早稲田大学出版部 2. 論文 松岡俊二 (2015), 「『フクシマの教訓』と原子力リスク・ガバナンス」, 『アジア太平洋討究 (早稲田大学大学院アジア太平洋研究科紀要)』 25, pp.1-13. 松岡俊二 (2015), 「(環境論壇)『フクシマの教訓』と原子力リスク・ガバナンス」, 『環境経済・政策研究』 8 (2), pp.31-35. 松岡俊二 (2012), 「福島第一原子力発電所事故と今後の原子力安全規制のあり方」, 『アジア太平洋討究 (早稲田大学大学院アジア太平洋研究科紀要)』, 18, pp. 121-142.
-----------------------	--